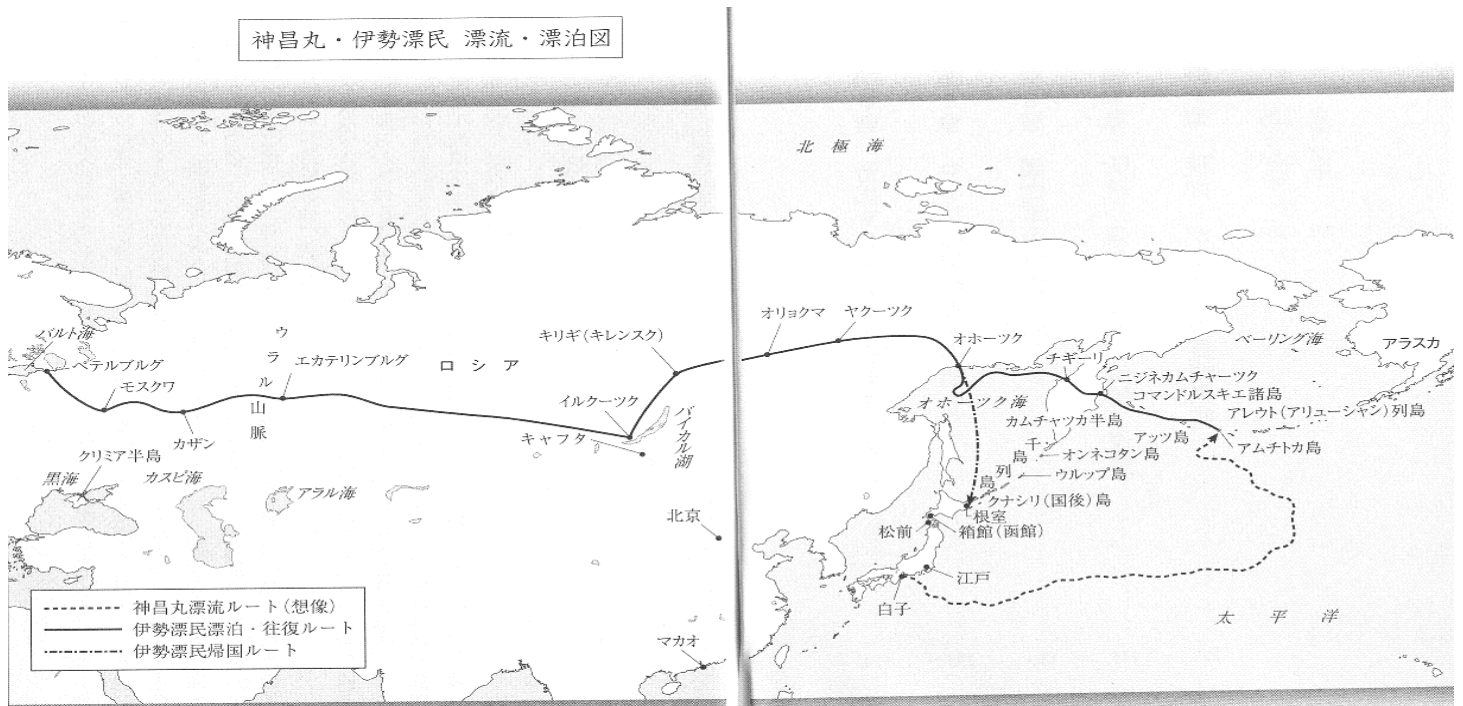


## ロシア語と日本語の出会い

- 1697 **デンベイ**がカムチャッカに漂着。
- 1705 ペテルブルグに日本語学校開設。デンベイその教官となる。
- 1710 **サニマ**がカムチャッカに漂着。
- 1714 サニマ、ペテルブルグへ。デンベイの助手に。
- 1729 **ゴンザ**と**ソウザ**がカムチャッカに漂着。
- 1735 二人はペテルブルグでロシア人に日本語を教え始める。
- 1736 ソウザの没後ゴンザがスラブ・日本語辞典の編纂に着手。

## 大黒屋光太夫の冒険



山下恒夫(2004)『大黒屋光太夫 帝政ロシア漂流の物語』、岩波新書 より

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| (1) <u>船頭大黒屋光太夫 (帰国)</u>   | (10) 新蔵 (帰化)         |
| (2) 三五郎 (アムチトカで病死)         | (11) 藤助 (アムチトカで病死)   |
| (3) 次郎兵衛 (アムチトカで病死)        | (12) <u>磯吉 (帰国)</u>  |
| (4) <u>小市 (帰国するも根室で病死)</u> | (13) 長次郎 (アムチトカで病死)  |
| (5) 久右衛門 (イルクーツクで病死)       | (14) 勘太郎 (カムチャッカで病死) |
| (6) 幾八 (船中で病死)             | (15) 安五郎 (アムチトカで病死)  |
| (7) 庄蔵 (帰化)                | (16) 与惣松 (カムチャッカで病死) |
| (8) 清七 (アムチトカで病死)          | (17) 作次郎 (アムチトカで病死)  |
| (9) 藤蔵 (藤吉、カムチャッカで病死)      |                      |

- 1782.12 **大黒屋光太夫**一行が江戸へ向かう途中遭難。漂流中1人死亡。
- 1783.7 アリューシャン列島のアムチトカ島に**大黒屋光太夫**一行が漂着。漂流中1人死亡。
- 1787 7人死亡して生き残った9人がカムチャッカへ。ここでさらに3人が死亡。
- 1789 残った6人がイルクーツクへ。新蔵と庄蔵が洗礼を受け、日本語教師に。
- 1791 1月**ラクスマン**に助けられペテルブルグへ。  
8月エカテリーナ2世に謁見。帰国を願う。  
9月帰国許可
- 1792 光太夫、磯吉、小市根室に帰国。が、小市は根室で病没。
- 1794 **桂川甫周**、光太夫からの情報に基づき北槎聞略をまとめる。(辞書も含む)
- 1796 魯西亜辯語 (露和・和露辞典。光太夫が中心の一人に?)
- 1808 **馬場佐十郎**にロシア語を伝授。
- 1811 **ゴロヴニン**、測量のためディアナ号で択捉・国後に。日本によって拉致。
- 1812 副艦長のリコルド、国後航行中の松前の商人**高田屋嘉兵衛**を拉致。  
・・・「**ゴロヴニン事件**」
- 1813 馬場佐十郎、松前でゴロヴニンにロシア語を学び、魯語文法規範を翻訳。  
光太夫以来の文字と単語のみのロシア語が文法と文章のレベルに高められる。



左が光太夫、右が磯吉



V.M. Golovnin



高田屋嘉兵衛

#### おろしや国酔夢譚

小説：井上靖著（1968年が初刊、文春文庫など入手可）

映画：佐藤純彌監督、緒方拳主演（1992年、DVD入手可）

#### 大黒屋光太夫記念館

三重県鈴鹿市若松中一丁目 1-8（近鉄名古屋線急行利用：伊勢若松駅下車徒歩15分 近鉄名古屋線特急利用：白子駅下車 タクシー利用10分）